

日食情報センターの 今後の活動について

2014年 3月 9日

日食情報センター

塩田 和生

はじめに

日食情報センターは、1977年末に発足し、
37年間に渡って情報発信活動を続けてきました。

日食情報誌は119号まで発行
報告会・勉強会は約30回開催

しかし、時代の変化とスタッフの老齢化で、
今まで通りの活動が難しくなっています。

時代の変化と日食情報センターの状況

日食海外遠征の最近の大きな流れ

- ①日食遠征者の増加
- ②遠征者の関心事の多様化
- ③日食情報を扱うメディア増加

日食情報センターでは、これらの変化に対応すべく
網羅性・質を重視した情報発信に努めてきたが・・・

そのような活動を続けるため、負荷は増大
一方で、スタッフ老齢化、情報収集パワー弱体化

遠からずクローズor活動内容変更せざるを得ない？

日食情報センターの目標と情報発信内容

発足時の目標 : 日食海外遠征の普及

遠征のための事前情報と、遠征結果のまとめ

将来の日食の天文学的条件・気象条件

遠征候補地情報・ツアー情報(網羅的に)

遠征時に必要な様々な参考情報

日食遠征経験者の体験談

日食遠征人数の全体集約、などなど

その後加えた目標 : 日食観測のレベルアップ

そのための情報発信内容

日食計算の方法

日食撮影法・機材・ソフトなどの紹介

日食と関連がある太陽研究の紹介

学術的に意味のある観測の勧め、などなど

日食情報センターの運営形態

A) 一般的な同好会とは異なる形態

会員という概念なし（スタッフと購読者・勉強会参加者）

B) スタッフは、東京近郊で集まり易い人

発足時8名、現在は10数名

日食大好き人間が、それぞれ出来る仕事を分担

○長年継続できた、経験の蓄積で効率が向上

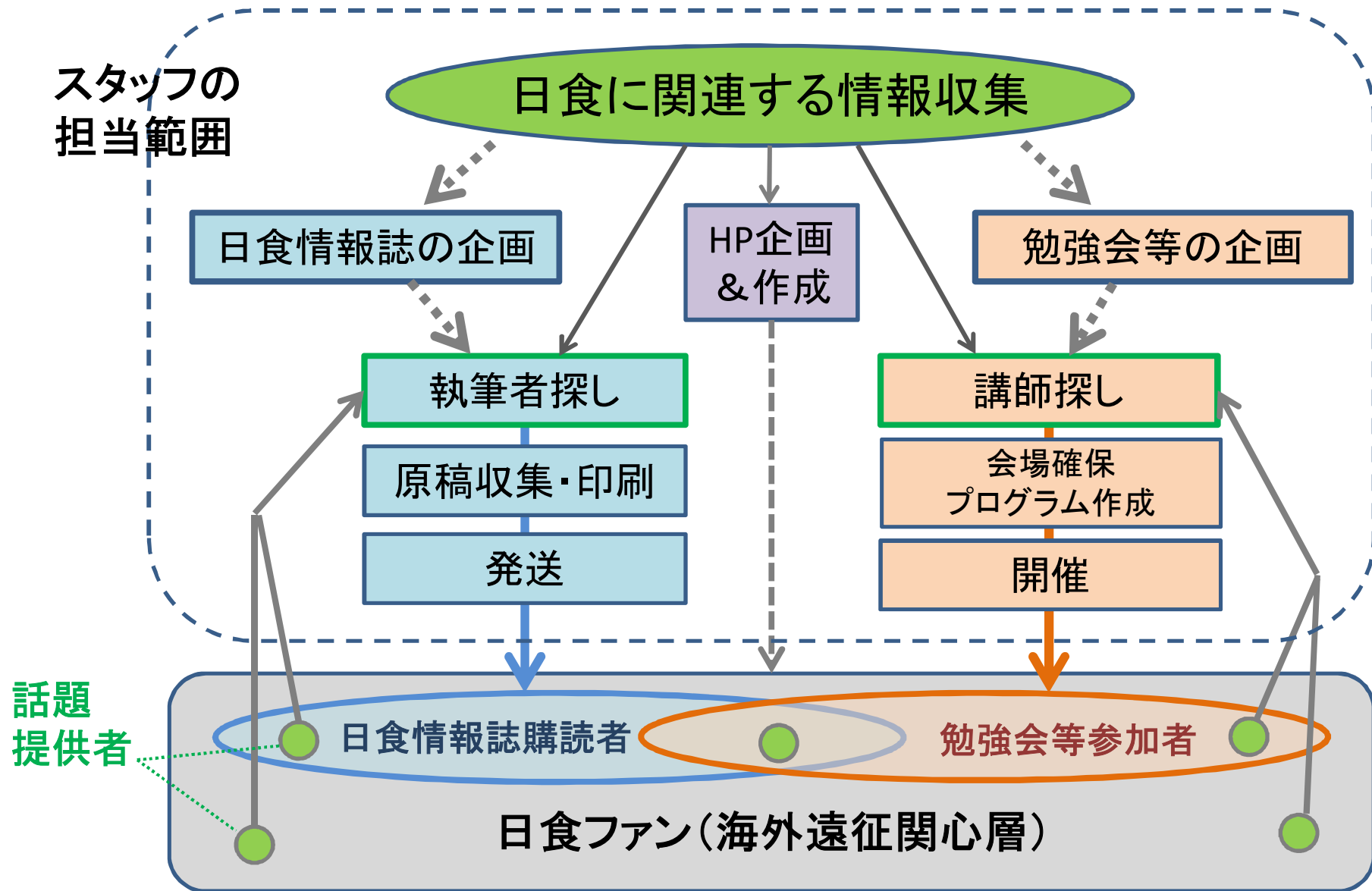
×スタッフが固定化（老齡化に対応困難）、勉強会も東京中心

C) 具体的な活動

日食情報誌の発行と、勉強会等の開催がメイン

執筆者・講師もスタッフも、全てボランティア

具体的な活動の流れ



日食情報センターの課題

以前は、各スタッフが無理なく分担して運営出来ていたが、現在は、幾つかのタスクが火の車状態。

1) 特に情報収集マンパワーの弱体化

ピーク時＝約10名 現在は約1/3に減少 & 老齢化
一方で、遠征者数増加・関心事多様化で負荷は増加

2) ホームページの企画 & 作成は、以前から弱点

スキルのある人少なく、しかも多忙
新しい情報が中々発信できない状態が続いている

今後の方向性

このままでは遠からず限界

→2015年末までは何とか現状維持で頑張るが、その先は？

長年続けてきた活動を何とか継続出来ないか、検討中。

現状活動内容の継続には大幅な補強が必要です…

そこで、現時点では次のような新機軸も検討中です。

A) 日食観測レベルアップに特化したML中心の活動

B) 扱う情報を絞り、紙媒体からネット発信にシフト

いずれもスタッフの補充と、運営形態の刷新が前提です

日食情報センターの活動に興味をもたれ、自分もスタッフになって役割を担いますと考えていただける方は、ぜひご参加ください

ご協力、
よろしくお願ひします